

令和4年度 北海道八雲高等学校 学校関係者評価書

1 経営方針

- (1)教育の質向上を確保し、生徒が安全で安心して学べる教育環境を形成する。
- (2)保護者、地域と連携し、生徒一人ひとりの教育的ニーズを踏まえた教育を展開する。
- (3)全教職員の緊密な連携の基、個々の強みを生かした魅力あふれる学校づくりを目指す。
- (4)客観的な学校評価により学校課題を明確化し、絶えず解決のための方策を検証・協議し具体的な改善策を速やかに実施する。

2 本年度の重点目標

- (1)生命尊重や人権擁護の精神の基、生徒の心の琴線に触れる教育を推進する学校
- (2)生徒一人ひとりの学力向上を目指し、主体的でより高い資質・能力を育成する学校
- (3)生徒や保護者の負託に応え、個々が希望する進路の実現が果たせる学校
- (4)保護者や地域から信頼され、生徒にとって魅力ある居心地のよい学校
- (5)職員が協働意識を持って仕事に取り組み、お互いの強みを生かし合う風通しの良い学校

3 評価基準

・評価は4段階。(4 大変良くできている 3 概ね良くできている 2 あまりできていない 1 できていない)

4 自己評価の結果(※網掛けの部分は3. 0を下回った項目)

分野	番号	評価項目	主な取り組み	自己評価	実践事項および改善策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
総務	1	教育活動や校務運営の円滑化・効率化を図る。	(1)式典等を立案企画し、その円滑な実施に努める。 (2)各分掌・学年・学科・教科との連絡を密接にする。 (3)学校評価システムに基づいて、校務運営の効率化に努める。 (4)防災・防火体制を組織し、非常時における意識の高揚に努める。 (5)各種奨学生の事務と指導にあたる。	3.4 (3.2)	(3)学校評価アンケートは紙と楽メとGCRの併用で実施 →集計の効率化ができた。 (4)2度の避難訓練を実施	A	A
	2	各種ファイルの収集管理及び整備と活用を図る。	(1)職員の事務的業務処理の効率的な推進補助に努める。 (2)校内規程集の見直しを推進する。 (3)内外文書の収集、情報の提供と効果的な活用に努める。 (4)総務部管理の書類整備を推進する。	3.4 (3.1)	(4)部門毎、年度毎、わかりやすいように整理する必要がある。	B	B
	3	関係諸団体との連携を密にし、協力体制の確立に努める。	(1)父母と教師の会との協力体制を図る。 (2)100周年行事に向けて同窓会との協力体制を図る。 (3)地域との密接な関係づくりを図る。	3.4 (3.3)	(2)同窓会と連携し、順次準備を進めることはできている。	A	A
	4	外部への積極的な広報活動を推進する。	(1)学校情報の提供に努め、開かれた学校づくりを目指す。 (2)広報誌やホームページを活用し、学校PRに努める。 (3)学校説明会のあり方を検討し、充実させる。	3.5 (3.3)	(1)学校ホームページのリニューアル化 →とても見やすくなった。	A	A
教務	5	基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得を図るとともに、意欲的に知識・技能を活用する学習活動の工夫・改善を図る	(1) 生徒の学力の実態把握に努め、基礎・基本の定着を図る。 (2) 思考力・判断力・表現力を育成する学習活動の研究を行う。 (3) 読解力やコミュニケーション能力の向上に向けた授業内容の研究を行う。 (4) 授業研究の推進と充実に努める。 (5) 教科・学年・分掌との連携を図り、学ぶ態度の育成に努める。 (6) 家庭学習の定着の推進を図る。 (7) シラバスの内容の充実と改善を図る。	3.2 (3.0)	届出、成績管理、教科書等、日課(時間割)、諸表簿などに関わる諸業務について、滞りなく実施した。 (4)公開授業週間の実施。	B	A
	6	現状分析と学習環境の整備を図るとともに、個々の生徒に対応しうる授業力の向上を図る	(1) 学力等実態調査の有効活用を図る。 (2) 定期考査や長期休業前後などを節目とした日常的な環境の整備を働きかける。 (3) 校内研修の充実を図り、教育実践向上の課題解決を図る。	3.2 (3.2)	(1)学力調査、授業アンケートや教員による授業評価については例年通り実施した。 (2)考査、評価・評定についても、システムの説明書を細かく出すなどして円滑に実施した。 (2)定期考査のあり方や評価に関する教科内での話し合いを、教科主任に働きかけることができた。 (3)新システムの研修会を行った。	B	A
	7	家庭学習の定着を一層推進するとともに、家庭学習の取組が評価に反映されるような、評価方法や指導方法の改善を図る	(1) 家庭学習習慣化指導の充実 (2)評価規準、評価方法の工夫改善(3観点別評価方法の段階的構築)	3.1 (2.9)		B	A
	8	焦点化した生徒の課題の解決に向けた教育課程の円滑な運用を図る	(1) 2・3年のコース別授業の円滑な運用に努める。 (2) 3年の選択授業の円滑な運用に努める。 (3) 自ら学ぶ力、考える力の育成等、探求型の教育を目指した教育課程の運用に努める。	3.3 (3.1)		B	A
	9	図書、視聴覚機器の充実を図り、教育環境づくりに努める	(1) 閲覧室・司書室の整備と図書・資料の整備・精選に努める。 (2) 各教科・生徒への購入図書の希望調査を行う。 (3) 図書館だよりの発行・図書委員会の活性に努める。 (4) 視聴覚機材の整備、充実を図り、保管ロッカー(会議室)を整備する。 (5) 視聴覚教室及び視聴覚機器利用時の利用簿記入を徹底し、利用を管理する。	3.5 (3.3)	(4)視聴覚機材の整備、充実。 (1)図書の内容を精選して適切に購入した。 ・教職員・生徒への希望調査を予定通り実施し、購入に反映した。 (3)昼休み、ほぼ毎日図書室開放をし、継続的に活動を行った。図書購入希望調査と図書選定に図書委員が主体的に関わった。	B	A
	10	基本的な生活習慣の確立を図る	(1)遅刻・無断外出等の指導の徹底に努める。 (2)頭髪・服装等の身だしなみ指導の徹底に努める。 (3)礼儀指導、特に挨拶の励行の徹底に努める。	3.3 (3.2)	(1)朝の立ち番や、HR担任の先生方のご協力があり、遅刻はほとんどなかった。 (2)定期の身だしなみ点検以外に修学旅行前に学年と協力して身だしなみ検査を行った。	A	B
	11	地域、家庭、関係機関等との連携を強化し、調和のとれた個性の伸長を図る	(1)品位ある生活態度を目指し、社会生活に対応できる人間の育成に努める。 (2)家庭地域の連携を深め、協働する指導体制の確立に努める。	3.3 (3.1)		A	B

生徒指導	12	生徒会活動の充実を図る	(1) 自主活動の活性化、計画的な取り組みを推進する。 (2) 各種委員会活動の活性化に努める。 (3) 部活動の活性化に努める。	3.4 (3.4)	(1) ピアサポート活動 (2) 委員会活動の活性化 (3) 年始強化合宿	A	B
	13	学校保健活動、教育相談、性に関する健康教育指導の充実を図る	(1) 健康診断・検診を適切に推進し、個々の健康状態に応じた指導に努める。 (2) 教育相談体制の充実を努める。 (3) 性に関する健康教育の講演やLHR指導等を企画し、意識を高揚させる。	3.4 (3.4)	(1) 新型コロナウイルスの感染予防(体温管理表・換気) ・検温表による体調管理	A	A
	14	環境整備の推進を図る	(1) 清掃指導の徹底に努める。 (2) 校舎外清掃等の活動を推進する。	3.5 (3.2)	(2) 清掃ボランティア	A	A
	15	情報モラル、交通安全、薬物乱用防止等の指導の推進を図る	(1) 情報モラル教育に関する講演やLHR指導等を企画し、意識を高揚させる。 (2) 自転車・列車通学生のマナー指導を行い、交通安全の徹底に努める。 (3) 交通安全、薬物等に関する講演を企画し、意識を高揚させる。	3.3 (3.4)	(1) 学校閉鎖等で情報モラル教室が中止、指導する機会がなかった。	A	A
	16	特別支援教育の充実を図る	(1) 生徒の実態把握に努め、適切な計画を作成・実施する。 (2) 研修会を企画・立案し、適切な資料提供を行う。 (3) 特別支援教育委員会及び外部機関と連携を図る。	3.3 (3.4)	(3) 特別支援委員会が前年度より、効果的に働いていたので継続していきたい。	B	A
進路指導	17	生徒一人一人の能力、適性に応じた進路目標の設定への援助とその実現を図る	(1) 学年との密なる連携と個人面談の充実を図る。 (2) 進路希望調査の活用と分析に努める。 (3) 段階的進路指導の明確化を図る。 (4) 進路別ガイダンス・進学相談会・講演会の充実を図る。 (5) 学習習慣の確立とスタディーサポート等の活用を図る。	3.4 (3.4)	(3) 公務員試験について (3) 総合的な探究の時間の企画・運営 (4) メディカル講座、進路報告会、公務員試験受験者ガイダンスの実施 (4) プレ推薦入試の実施	A	A
	18	進路指導資料の収集・分かりやすい提示・効果的運用を図る	(1) 進学就職資料の分析と効果的利用に努める。 (2) 模擬試験結果のデータ分析の有効活用を努める。 (3) 大学入試制度改革の情報収集およびその対応に努める。 (4) 「進路だより」や「進路相談員だより」を適宜配布する。	3.6 (3.3)	(1) 模擬試験の結果を学年団で回覧することによって講習に活かすことができた。 (1) 効果的なものを選択して運用することができた。 (2) さらにきめ細かくデータ分析を行った上で、面談を行うと成績向上につながると考える。	A	B
	19	職業観や社会性の育成を図る	(1) 職種理解・職業理解の促進に努める (2) 資格取得の推進に努める。 (3) インターンシップの効果的な実施方法について検討する。 (4) 進路室・進路指導室の有効活用を図る。 (5) 礼儀、マナー、服装指導等に対して、進路指導の立場からも関わる。 (6) 卒業後の離職率を40%以内に努め、就職希望生徒との面談の充実を図る。	3.4 (3.2)	(1) 「進路の日」、「農林漁業出前講座」の実施 (6) ビジネスマナー研修の実施	B	A
	20	講習体制の効果的運用を図る	(1) 進路希望別指導の充実を図る。 (2) 進路指導関連行事の適切な設定に努める。 (3) 進学講習の充実と各教科との連携強化に努める。 (4) 模擬試験の計画的な実施に努める。 (5) 模擬試験において、目標とする偏差値を達成に努める。 (6) 2年夏以降の模擬試験の受験希望者数を確保に努める。	3.4 (3.2)	(1) できるだけ進路希望に合わせた内容を目指すべきである。 (3) 3年次の講習では基礎的なことを学び直すことが多かったので、あまり発展的なことまでは進めなかった。 (3) 夏冬の講習計画を行った。1学年から小論文講習を実施した。	A	A

●進路指導、教育動向に関わるご意見等をお願いします

・2学年での学びが特に重要である。自分の将来について決めることの難しさはあるが、学力についても一つの可能性を求め、チャレンジさせる促しが家庭の理解も含めて必要である。「失敗しても大丈夫だ」とは言え、現実の社会ではどうか。ジレンマは残るが、若いのが故に許容されることもある。挑戦する心を育む指導をお願いしたい。

・進路指導部から出されていた「令和5年度のアカデミックインターンシップ」については、是非進めていただきたい。

●その他、全体を通してのご意見等をお願いします

・学校祭などのイベントに参加できない年が続いている。国の規制も緩和されつつある。令和5年度は地域と学校の交流機会が元に戻ることを期待している。

・今後のマスク着用(3月13日より個人の判断に委ねられるが)は、学校生活の上ではどのように扱われるのか。